

「伝え合う力」を柱とした授業改善の取組

福知山市立夜久野中学校

全国学力・学習状況調査の結果における特徴

1 国語

国語 A、B ともに全国平均を上回る結果となった。国語 A では「話す・聞く能力」、国語 B では「国語への関心・意欲・態度」「書く能力」の観点が大きく全国平均を上回った。言語事項の振り返りテストや、SSS ノートの活用を通して、継続的に文章を書く指導を行っていることが、「書く能力」の向上につながったと考えられる。

2 数学

数学 A、B ともに全国平均を上回る結果となった。特に数学 B では「数と式」「資料の活用」領域について大きく全国平均を上回った。「数と式」の領域については授業開始時に定着プリントを繰り返し行うことで成果が見られた。また、学習内容に応じてペア学習、グループ学習などの伝え合う活動を行うことで、思考力・判断力・表現力の育成に効果があったと考えられる。

3 理科

全国平均を上回る結果となった。特に第 2 分野「生物的領域」については全国平均を大きく上回った。授業開始時の小テストによる基礎・基本の振り返りが結果につながった。また、観察や実験を通して、体験的な活動を重視したことが科学的な思考力及び表現力の育成につながったと考えられる。

全国学力・学習状況調査の結果に寄与したと考えられる取組

授業における取組

1 大切にしていること

- 伝え合う活動を大切にした授業づくり
- 9年間の系統性を踏まえた授業づくり
- 一貫した授業スタイル

全国学力・学習状況調査を分析し、課題が見られた「関数」領域の活用問題を題材に、「伝え合う活動を通して数学的な考え方や表現力を育成する」視点で、どのような工夫ができるのかを研究授業で提案した。

具体的な実践例（2年生数学「一次関数」の活用）

(携帯電話パンフレットより)

YKN docono 伝える、つながる、その先へ

携帯電話料金プラン

	月額基本料金	1分ごとの通話料
Aプラン	1000円	20円
Bプラン	1600円	50分まで無料 それ以降は1分30円
Cプラン	2200円	定額制 ※通話料は一定

「伝えるための発表」ヒントカード

課題
「最初に2.0が入っている水筒があります。ここに1分間に5.0ずつ水を入れます。時間をx分、水量をyとして表や、グラフを完成させなさい。」

1 表について発表の仕方 (伝え方)

x (分)	0	1	2	3	4	5	...
y (L)	2.0	2.5	3.0	3.5	4.0	4.5	...

最終の状態を伝える

発表の例
「この問題では、最初に2.0L水が入っているんで、最初の分の下が2.0Lになります。それから、1分ごとに5.0ずつ増えるので、水の量が、2.5L、3.0Lと、5.0ずつ増えています。」

いくつか増えるかを伝える

2 グラフについて発表の仕方 (伝え方)

表のスタート(初期)を伝える。

発表の例
「この表をグラフにすると、最初に2.0L水が入っているんで、グラフの垂直軸の(初期)が2.0Lのところになります。それから、1分ごとに5.0ずつ増えるので、グラフも横に1目盛り(一分)で、縦に1目盛り(5.0)変化します。」

変化の様子を伝える。

伴って変化する数量を、自分のことばで伝えるための支援シート

店員「いらっしゃいませ」

岡部先生

「すいません、携帯電話のプランについて相談なんですけど、今まではAプランで契約していて今月は20分ほど通話しました。でも、来月からは仕事の関係で、携帯電話で通話する時間が変わりそうですね。どんなプランがお得になるのか説明してもらえませんか？」

店員「はい、おまかせください！お客様にピッタリのプランをご提案させていただきます。」

2 授業づくりの工夫

「つかむ」(導入)・「めぐる」(展開)・「たしかめる」(まとめ)の統一した授業スタイルを継続し、9年間を通して、基礎・基本の定着、思考力や表現力の向上を目指す。

- (1) 「つかむ」の部分では、導入を工夫することにより授業への意欲を高めることを大切にしている。また、計算などの反復練習を取り入れることで、基礎・基本の定着を図っている。



ウォームアップとして授業開始時には、プリントによる基本問題の反復やペアによる音声計算に取り組んだ。短時間に、繰り返して計算練習に取り組むことで、基礎・基本の定着につながった。また、全ての領域のベースとなる計算力の定着は、結果として活用問題に取り組む際の力となり、基本と活用、双方に効果が見られた。



生徒が店員役を演じ、いくつかの電話料金のプランを説明し、本時の学習のめあてを確認した。
身近なテーマではあるが、導入を工夫することにより、意欲や関心を高め、その後の授業の展開につなげることができた。

- (2) 「めぐる」の部分では、一人学び、ペア学習、グループ学習など、本時のねらいに応じた学習形態を工夫している。アクティブラーニングとして、相手の意見を聴き、思いを伝え合う取組を行うことで、理解を深め、活用する力の向上につなげている。



個人で考えた表や式をもとに、それぞれの料金プランの特徴を伝え合った。自分なりの考えを言葉に置き換え発信することで、自分自身の考えが明確になった。また、相手から様々な考え方を聴く事で、さらに多様な考え方を知り、自分自身の考えが深化した。このような伝え合う活動を継続させることが、数学的な考え方の育成に効果的に働いた。

- (3) 「たしかめる」の場面では、本時のめあてに立ち返り、学習内容を振り返ることで、より効果的な学びにつなげている。



グラフや表をもとに、全体で意見を交流した。時間に応じて料金に変化する様子を理解し、どのプランがお得なのかを伝え合った。自分とは違う意見を聴き、比較することが、さらに深い学びにつながった。

授業以外の取組

1 家庭学習の習慣化

- (1) 家庭学習の手引き

各学年期に応じた「家庭学習の手引き」を作成し、保護者に配布した。また、児童生徒に家庭学習の意義や方法、学習計画の立て方などの指導を行った。

- (2) SSS ノートの指導

「SSS(Self Study Schedule)ノート」を活用し、自ら計画的に学習に取り組もうとする姿勢を育成している。

その日の家庭学習、明日の予習などについて自分で計画して自主的な学びにつなげる。毎日、担任による励ましやコメントも入れ、学習支援の一つの材料として有効に活用している。

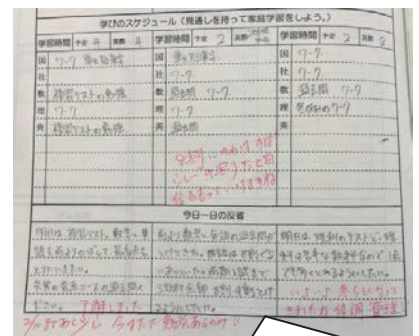
- (3) 自主学習ノートの取組

学習生活委員会によるキャンペーンで「家庭学習強化週間」を実施した。

2 補充学習、放課後学習

- (1) 定期テスト前の放課後学習会や、長期休業中の学習会を実施し、学習内容の理解を図るようにした。
(2) 「中1ふりスタ」、「中2学力アップ」を活用し、基礎・基本の定着につなげている。

「家庭学習の手引き」では9年間のつながりを意識して指導している。



「SSS ノート」で家庭学習の計画を立て、自主的な学びにつなげている。